

ふくしまの未来へ 2016

～3月11日知事メッセージ～

2011年 「ガソリンがない、食べ物がない、寒い。
ものすごく大変なときに、私は、人の心の温かさに触れ、
そのありがたさをかみしめながら、避難所に向かうことができました。」
—両親が被災した40代女性の思い
「祖父の作った原木しいたけは、とても肉厚で、美人しいたけと評判だった。
しかし、福島で原木での栽培はできなくなった。
その日を境に、祖父の体が少しずつ小さくなるように感じた。」
—中通りの中学1年生の体験

震災発生から1年を迎えた日
未曾有の災害に苦しむ中、私たちは、「ふくしま宣言」として、
「うつくしいふるさとを取り戻し、活力と笑顔あふれるふくしまを築いていく」ことを誓いました。

2012年 よみがえった相馬野馬追—
2013年 洋上風力発電「ふくしま未来」の始動、あんぼ柿の出荷再開—
2014年 国道6号の全面自由通行、避難地域の帰還開始—
2015年 常磐自動車道的全線開通、ふたば未来学園高校の開校、
「世界一のSAKE」と認められた県産日本酒—

あの日から5年
ふくしまの復興は着実に前へ進んでいます。
たゆまぬご努力をされている県民の皆様に敬意を表し、
福島に思いを寄せる多くの皆様の温かいご支援に、心から感謝いたします。

一方、今なお10万人近くの県民の皆様が避難生活を続けています。
時間の経過とともに、復旧・復興の状況に差が生じています。
これからどうしたらいいのか分からず、悩んでいる方もおられます。
私たちは、風評と風化という強い逆風とも戦っていかなくてはなりません。

ふくしまの子どもたちは、自分の夢や希望に向かって立ち上がり、歩みはじめています。

「私は大学に進学し、地域振興について学ぶ。
今は村に帰ることはできませんが、震災前よりも豊かな村に変えていきたい。」
—中通りに避難した高校2年生の希望

「人々にぎわい、どんなことにも負けない福島県を築き上げる。
これからいっぱい勉強して、復興に役立つような職業に就きたい。」
—浜通りの小学5年生の決意

「2020年のオリンピック・パラリンピックが開かれるまでには、
世界各国の人々に自慢できる福島県の自然や環境を取り戻したい。」
—中通りの中学2年生の決意

私が描く、ふくしまの未来。
ふるさとを愛し、笑顔を輝かせる子どもたち。
世界に貢献する「メイドインふくしま」の最先端ロボットの開発。
県内原発の全基廃炉。再生可能エネルギー先駆けの地。
美しい風景やおいしい食べ物、温かいおもてなしに感動する国内や海外の皆様—

「ふくしま宣言」の理念に立ち、誇りと自信を取り戻すこと。
そして、新しいふくしまの誇りを創り上げていくこと。
私は、強い決意を持って、未来のふくしまの創造に向け、果敢にチャレンジしていきます。

県民のみなさん。
自分の夢や目標に向かって挑戦を続ければ、必ず未来を切り拓くことができます。
未来のかたちを描くのは、私たちです。
新しいステージへ自らの足で大きく踏み出し、
愛するふるさとふくしまの未来をともに創っていきましょう。

平成28年3月11日

福島県知事 内堀 雅雄